

# きくの会

調査団体名 : きくの会  
 設立年 : 2007(平成19)年9月  
 団体URL :  
 活動拠点 : 根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」  
 取材日 : 2014年12月20日

団体代表者名 : 田中きく江  
 対応してくれた人の名前 : 田中きく江 はじめ会員8名  
 調査員 : 松井賢子、浅田益章、沖 章枝  
 レポート作成者 : 松井賢子

## 活動内容 :

根羽村のような小さな村でもお葬式が村外で行われるようになって、村内の高齢者から遠くて出席できないと耳にするようになった。平成19年9月「きくの会」を設立。  
 食事作りのお手伝い・・・会席・精進おとしの料理をつくっている。  
 お葬式を「しゃくなげ」で執り行った後の「会食」を提供。会員8名、協力員70名で現在に至っている。  
 48回会食を作った。前日、手分けをして「地元のをそろえる」「地元のお店で買い物」等で必要なものをそろえる。  
 依頼人数によって、8名の会員以外に10人に1人の割でお手伝いを頼む。

## キャッチフレーズ :

食材は、「地元のものを使い」「そろわないものは地元の店で購入し」「地元の活性化！」

## 会のモットー(何を大切にしているか) :

昔の「結」が高齢化で出来なくなり、「有志」が集まって、昔から伝わっている「お葬式」・「精進おとし」の食事を、地元の食材、地元のお店で購入したものを使って作る。

## 設立から現在に至るまで変化したこと:

有志が集まって、職員の松井さんにアドバイスを頂き、8名で「楽学会」を発足。まず何から取り組むかの話し合いで、女性議員誕生を旨とし、神奈川に勉強に行き、平成19年4月石原明子さんが13名中4番で初当選し、まず(第一)の目標達成。次に「いかまい会」を発足し、何をしていくか検討した結果、現在の「きくの会」が出来た。  
 現在は「根羽村の子どもを守りましょう」の看板をつくり、小中学校や事業所に配布して、運動展開中。

## 連携している団体・専門家・自治体など:

根羽村役場、会席場として借りる「しゃくなげ」の職員

## 山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など):

昔から根羽村に伝わっている「お葬式の食事」の食材を、会員と70余名の協力員を中心に提供して頂いている。地元の商店も注文した物をそろえて下さっている。地元にお金が入る様に協力している。

## 現在直面している課題 :

村内の自宅に住んでいない人が多くなりつつある。葬儀屋さん「しゃくなげ」で執り行ってもお料理は外から運んでもらい、最近は「折り詰め」でなく「きくの会」の様に「皿もり」「汁物」で出る様になって、注文取りが難しくなってきた。

## 今後やってみたいこと:

「お通夜」の食事作りをしていきたい。地元のスーパーで「おさしみ」を購入して、地元に貢献して下さる家もある。「お通夜」「葬儀後の会食」「精進おとし」と一貫して行っていくことを目指している。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か：

区長さん、役場の方たちに声かけをして利用していただけるようお願いしている。

村内の人たちにもっと地元にお金を落としてもらい、村の活性化に協力して下さるよう理解してもらえることが課題である。

チームオリジナルの質問：

<質問内容>「根羽村の子どもを守りましょう」の看板をどのように生かしているか？

<答え>小・中学校の校門前に毎朝7時から40分立って、全校生徒とあいさつをしている。「あいさつ運動」として。

チームオリジナルの質問：

<質問内容>これからの「きくの会」の新しい目標

<答え>4月の選挙に向けて「第二の女性議員の当選」

その他、伝えたいこと：

・「ジャンボからすみ」作りに挑戦……一応できた。

・根羽村再発見……史跡めぐりを3回行った。「ネバーランド」だけでなく、外から多数の人達が来て、楽しんでもらうため、考えている。

写真

